

# 一般社団法人交通環境整備ネットワーク 10年史

The history of ecotran 2009–2019

## 発刊のごあいさつ

一般社団法人交通環境整備ネットワークは、2019年4月に創立10周年を迎えることができました。

これもひとえに会員の皆様と国土交通省鉄道局をはじめとする関係各位のご支援、ご協力のおかげであり、心より感謝を申し上げます。

当法人は、CO2排出量が少なく環境負荷の小さい交通体系の構築が今後の我が国の持続可能な社会を支えていくこととなるとの認識のもと、鉄道を軸とした地域の交通環境が着実に整備されていくことを願い、次の四つを事業の柱としています。

- 一 交通環境の調査研究
- 二 交通環境の整備及びその活動に対する支援協力
- 三 交通環境にかかる提言、出版並びに情報発信
- 四 前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業

交通環境の調査研究につきましては、国内外の鉄道事情や地域の交通実態に関する調査研究を進め、その成果物として『地域交通を考える－Regional Transportation Review－』を毎年刊行してきております。

交通環境の整備には、先ずもって多くの方に核となる地域の鉄道の現状を知っていただくことが大切であり、「地域鉄道フォーラム」や「セミナートレイン」、「鉄道写真詩コンテスト」等を開催するとともに地域鉄道会社に対してのアドバイザー機能の強化を図ってまいりました。

当初は手探りで始めました私共の事業ですが、これまでのあゆみを10年史としてまとめましたので、ご高覧いただければ幸いです。

今後も鉄道を軸とした地域のより良い交通環境整備の一助となりますよう事業活動を展開して参りますので、倍旧のご支援ご協力をお願い申し上げます。

2019年（令和元年）11月25日

一般社団法人交通環境整備ネットワーク 代表理事 原 潔

## 10周年に寄せて

独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構 理事長 北村隆志



一般社団法人交通環境整備ネットワークが設立10周年を迎えられ誠にありがとうございます。

この法人の設立時に鉄道局長を務めていた縁で、法人の代表理事になられた原さんから応援頼みますよと言われ、私としては、内館牧子さんの「終わった人」ではないが第二の人生をどう過ごそうかと思ひ悩むのが世の常である中で、鉄道局OBなど鉄道の経験を積まれた方々が現役当時に培われた知識経験、ノウハウを活かして地方鉄道のサポート活動をされるとは、いいヴォランティア活動だなと軽く考えて、応援しますなどと申し上げたのです。

でも、その後の法人の活動ぶりを拝見しますと、情熱をもって立派な活動をなされ驚天動地です。セミナートレイン、鉄道茶論、地域鉄道フォーラムを開催され、各地で分野もひろく自然体の活動を継続されており、その人脈ネットワークの広さとアイデアに敬服する次第です。さらに鉄道写真詩コンテスト、地域鉄道の技術安全支援、「地域交通を考える」と題する定期刊行物を発刊されるなどそのエネルギー感に感心しています。第二の人生のいい過ごし方などと失礼な認識をもっていたことをお詫びします。

地方鉄道は、最近JR北海道の閑散線区の問題がクローズアップされていますが、全国どこの地域にもある問題です。人口減、マイカー利用が当たり前になり、鉄道の利用者が極端に減ったが高校生の通学やマイカーを利用できない人のために地域の交通は必要です。鉄道経営としては大赤字のため鉄道事業経営者側は赤字を削減するために、鉄道事業の廃止、バス転換又は地元自治体に相当分の負担を要請する。地元自治体側は鉄道が廃止されれば地域がさらに寂れていくという危機感の中で、鉄道経営は基本的には事業者の問題であるという意識、でも地域交通の維持という地域の問題でもあることも歴然とした事実という中で調整が行われる難しい課題です。

そういう中であって、経営難の鉄道会社社長に応募し、自らが果敢に事業再生に取り組んでおられる方々の姿の紹介を通して、地方鉄道の経営は単に輸送の問題

にとどまらず、人の心を運ぶサービス業として地域の方々を巻き込んで様々な努力をしていくことがいかに大切か、机上の空論ではなく身をもって実態に即した活動の大切さを訴えられていることは傾聴に値します。また、地方鉄道では鉄道技術者が手薄でおろそかになりがちなる安全防災対策についてその大切さを啓蒙されていることもさすがであります。

日本人には男女を問わず鉄道の大好きな人が多いのはご承知のとおりです。遠くに沈みゆく夕日で赤く染められた湖畔を走る鉄道、沿線の満開の桜林の下早くも散りゆく桜吹雪を浴びながら疾走する鉄道、若葉の頃に深い山間の中から力強く蒸気を吐きながら突進してくる鉄道など、鉄道のある風景は日本の原風景の一つです。鉄道駅は人々の出会いと別れがあり、人の感情の琴線に触れる場でもあります。この法人では鉄道に関わる文化も取り扱われています。このように地方鉄道に関わる多様な一面を複眼的に取りあげられてこられたことは鉄道のことに精通し慈しみをもっておられるこの法人の方々ならではの面をさらに掘り下げていただければと思います。

さらに、地方鉄道は単に地域交通の分野にとどまる問題ではありません。街づくりと一体となった鉄軌道系の交通でコンパクトな街づくりをとよくいわれています。コンパクトな街づくりができれば地方にお住いの方々の活動ももっと活発となり健康が増進される。地方行政からすれば鉄道経営で赤字がでたとしてもお住いの方の健康度が増進すれば健康負担が減少するなど街経営全体でみれば大きなプラスになるという話をよく伺います。これも机上の抽象論ではなく実態に即した具体論であればもっと説得力を増すのにとよく思います。

また、地域の交通をどう確保するかは課題は地方だけの問題でもありません。大都市でも昨今高齢ドライバーの運転による事故の問題が話題となっています。自動運転の方向も示されていますが、どんなに都市鉄道が頻繁にあっても、バス・タクシーが利用できたとしても使いたいときにいつでも使える輸送手段、マイカーを手放すことは躊躇するという声も聞きます。このような問題も地域交通を考える一環でとりあげて頂ければと思います。

とまれ、このような問題は交通政策を担う現役世代に考えていただくべきです。でも、そのようなことをお願いしたくなるほどこの法人の活動には目覚ましいものがあります。

最後に、交通環境整備ネットワークがさらに、20周年、30周年とますます発展されることを、心から期待しております。

## 10周年に寄せて



国土交通省鉄道局長 水嶋 智

一般社団法人交通環境整備ネットワークが創立 10 周年を迎えられましたことを心からお祝いを申し上げます。

貴法人は、環境負荷の小さい交通体系の構築が今後の我が国の持続可能な社会を支えていくこととなるとの認識のもと、鉄道を軸とした地域の交通環境が着実に整備されていくことをめざして創設されたと伺っております。

創設後この 10 年間、地域鉄道の現場で学ぶ「セミナートレイン」、鉄道のみならず鉄道を取り巻く文化・芸術などにも造詣が深いコメンテーターによるトークセッションが好評を博している「地域鉄道フォーラム」などの開催により、地域鉄道の現状や歴史を参加者とともに学ぶ機会を提供し、啓蒙・啓発活動に取り組みされて来られました。さらに、近年では鉄道旅の魅力、その旅情を表現する芸術活動として、鉄道写真詩コンテストも開催するなど、精力的に活動を展開され、今日の発展をみるに至ったことは、社員、会員の皆様の努力の賜であり、畏敬の念を禁じ得ません。

鉄道局といたしましても貴法人の活動趣旨に賛同し、地域鉄道フォーラムや鉄道写真詩コンテストを後援するとともに、地域鉄道フォーラムに職員を派遣し、広く一般において鉄道行政への理解を深めていただくための PR の場として活用させていただいているところです。

さて、貴法人が設立された 10 年前を振り返ってみますと、私どもが司る地域鉄道行政においても変革を迎えた時期でありました。

貴法人の設立総会が開かれた 2009 年 3 月には、鉄道事業再構築事業の実施第 1 号となった福井鉄道の足掛け 10 年間の計画がスタートしています。

当時より多くの地域鉄道は、沿線人口の減少やモータリゼーションの進展により利用者の長期低落傾向にあり、厳しい経営環境に置かれていました。そのような状況を踏まえ、前年の地域公共交通活性化・再生法の改正により鉄道事業再構築事業の仕組みが構築され、上下分離などの事業構造の変更とともに、鉄道事業者の経営改善の取組及び沿線自治体等による支援を合わせて行うこ

とにより、継続困難に陥った路線の維持を図ることが可能となったのです。

奇しくも我が国の人口は 2008 年をピークに減少局面に入り、少子高齢化社会の進展とともに地域鉄道を取り巻く環境が大きく変化していく時期に当たっており、貴法人の設立と鉄道事業再構築事業開始の時期が重なったのは、いわば必然であったのかもしれない。

この 10 年の間に地域鉄道を取り巻く環境において、もう一つ大きな変化が起きています。訪日外国人旅行者の大幅な増加です。2009 年に 679 万人であった訪日外国人旅行者数は、昨年は遂に 3,000 万人を超えるに至りました。

鉄道局としても駅や列車内における案内表示等の多言語化や無料 Wi-Fi の整備など外国人旅行者が利用しやすい環境の整備に取り組んでいるところがあります。

一方、外国人旅行者も含むさらに多くの方々に地域鉄道を利用していただくためには、地域鉄道そのものの魅力を高めていくことも重要ではないかと考えております。

幸い貴法人では、地域鉄道に関する様々な利用促進策に関する情報や知見を蓄積され、調査・研究にも取り組まれていると承知しておりますので、ぜひそれらのノウハウを地域鉄道の活性化のためにご活用いただき、ご活躍いただきたく存じます。

今年は、元号が「令和」へと変わり、新たな時代が幕を開けましたが、鉄道が日本各地における公共交通の要であることには変わりありません。

安全で誰もが安心して利用できる鉄道ネットワークの構築を目指して、引き続き諸課題に取り組んで参りますので、貴法人のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



本誌は、ホームページ (<https://ecotran.or.jp/>) と連携しております。

連携ページには、ホームページの QR コードを掲載しています。

この QR コードをスマートフォン等で読み取りご覧ください。

ホームページでは本誌の電子版もご覧いただけます。

電子版はこちら

<https://ecotran.or.jp/10th/>

